消防団員

を目標に、様々な手段で新入団員の募集を 行っています。 に基づいて消防団員の充足率百パーセント 港北消防署では、令和二年度の事業方針

となり、重要な広報活動の機会が失われる の影響により、多くの地域イベントが中止 令和二年度は新型コロナウイルス感染症 少しでも消防団員の魅力を伝えたいと 新たな団員募集ポスターを

ンの配布等ご希望がございましたら、 なお入団希望や、ポスターの掲出、チラ 港北

分団本部に状況を付与し、更に分団本部 から該当班に模擬の災害出動指令を発令 が多発し、公設消防隊のみでは対応困難な状 に災害状況を付与、消防団本部から該当 想定は、台風により港北区内に甚大な被害 港北消防地区本部から港北消防団本部

するという一連の流れを無線で訓練しま

い中での訓 報を伝達す つ正確な情 て、迅速か 練を通じ 手が見えな

災害に対して有効な伝達 する訓練であったという 手段であることを再認識 感想が寄せられました。 併せて、本年度消防団全

風水害情報

訓練になったことを実感! 体で行った初の訓練に今後

各種訓練会や地域での防災訓練が中止とな 響で、例年実施していた夏季訓練会をはじめ

消防団としての活動が大幅に減少してし

年度当初は、緊急事態宣言が発令された影



達という相

用した漕艇訓練を行いました。

残暑の熱気が残る九月十二日、

置づけで団本部、第四分団、第五分団、

訓練は、消防署と消防団の合同訓練との位





訓練は、ゴムボートの組み立て、漕艇、

環境としては厳しいものとなりました。 面の状況が把握できない中、漕艇訓練を行う の確保を図りながら、出水時の救助者の搬送 収の一連の操作を行い、活動団員自身の安全 方法の確立を目的としました。 当日の訓練会場は大量の水草が繁茂し、

難な状況を実体験する機会となり、有意義な 発生し、その中で活動しなければならない困 が、河川が氾濫した際には、大量の浮遊物が しかし、このような悪条件ではありました

まいました。

第64号

令和3年4月1日 編集 横浜市港北消防団 (港北消防署内)

団は三密防止対策を講じた中、訓練を再開し 時に行わなければならない状況下に港北消防 感染症防止対策や夏場の熱中症防止対策を同 張所において行いまし 二分団及び第八分団の 協力を得て、篠原消防出 ルTVの番組撮影を第 日、テレビ神奈川カナフ 撮影は訓練の様子と 残暑の厳しい八月八

団員インタビューの二 水する様子を展示しま て二口の筒先により放

による情報受伝達訓練を港北消防署、区内各

消防出張所及び各分団器

具置場において

実施

災害に迅速に対応するため、港北消防団全体

長梅雨が明け、久しぶりに好天に恵まれた

なったものと感じてい 北消防団の魅力を発信す るとともに、新入団員確 この取材を通じて港















受け、いち早く災害現場に到着し 指示のもとホースを延長して筒先操作員と 訓練の内容は「建物一棟炎上中 の一報を 指揮者の

広場にて動画撮影を実施しました。よる放水訓練及び訓練礼式を展示することになりました。シナリオ作成と同時に撮影に向けた礼式訓作成と同時に撮影に向けた礼式訓作成と同時に撮影に向けた礼式訓 かせてくれました。 中、奇跡的に曇天の隙間から太陽が顔を覗 前日は大雨により撮影延期が危 心惧される

放水、指揮 練礼式を展開しました。 の状況を映像に収めました。 展示しました。訓練の途中に新入団員として 区内在住ゆるキャラ七体が参加して華やか訓 部隊行動を統一させる目的として訓練礼式を 次に指揮者の命令により団員を集結させ、

この動画は動画配信サイトに投稿されま

者が鎮火報告を実施して活動を完了

「する一連

活動発表会の 動画撮影 動画撮影 動画撮影 例年は、市内の公会堂で各消防団 の女性団員による活動発表を行って おりましたが、新型コロナウイルス 感染拡大防止の一環として、動画配 信サイトにて活動発表を行うことが 決定し、港北消防団は女性消防団 によって構成されている第八分団が 参加することとなりました。

















消防団員 上級救命講習

実施していた上級救命講習会は、 新型コロナ lを設けるなどの

感染防止対策を講じたうえ 言を受けて延期という判断をしました。 例年、春と秋に市民防災センターにおいて その後の宣言解除を受けて、参加人員に上 イルス感染拡大に伴う一回目の緊急事態宣

傩保、参加者のマスク着用及び指導者のフェ ベスシールド着用のうえ、講習会を実施しま び窓を開放し、常時換気の徹底、訓練資器 当日は感染症予防対策として会議室出入口 の使用都度の消毒、参加者どうしの間隔の

令和

口の三日間延べ受講者六十六人、指導者十九

内容を実施する予定でしたが二回目の緊急事

次年度に延期したことを

また計画では、令和三年一月及び二月に同

追記します。 態宣言発令のため、 必須の能力を身に付けることが出来たと感 り、自身の身の安全を守るという現代社会

講習を十一月二十九日、十二月五日、同六

港北区役所の会議室をお借りして上級救











②第五分団第3班

①第七分団第5班

⑤木村副分団長 **④加藤分団長**







講義形式で説明を行い、次に加藤第八分団長 による式典・訓練等に用いる訓練礼式の指導

団係長から消防団の活動や福利厚生について

飯田団長の開式あいさつに続き、中山消防

を講じた会場設定を行うなど感染防 月十三日に十人の新任消防団員に対 上に万全を期しました。 して、新任研修会を開催しました。 研修にあたっては、感染予防対策 港北区役所会議室において、十二 を行いました。

人ひとりに修了証を手渡しました。

すべての受講終了後、飯田団長より団員一

この研修を通して、消防団員としての自

覚を醸成するとともに、地域に根差した消 出来たという声を聞くことが出来ま 団活動の重要性を認識することが

ています。 修了証交付後に記念撮影を行いま これからのご活躍に大いに期待し

②飯田港北消防団長

ト段左側より

①平中副局長

上段左側より

④第二分団第3班 ③第二分団第4班 9第二分団第3班 下段左側より 忍

練や行事が中止や延期となる事態となり、多くの

宣言発令という状況

下で様々な訓

発令に始まり、二度目の緊急事態

安寧とご多幸を祈念しつつ、筆を納めさせていた 種など未確定な事案が多々ございますが、皆様の

ス感染症拡大に伴う 令和二年度は新型

緊急事態宣言

コロナウイル

ンピックの開催や新型コロナウイルスワクチン接

緬

制限を強いられた状況下で、従前の訓練方法に加

⑦第八分団第4班 ⑥第八分団第7班 8第八分団第3班

9第八分団第2班

る、消防団に対するニーズは高まるば

この執筆の時点で、東京オリンピ

このような状況下において地域の

的災の要であ

長酒 耕

かりです。

災害が世界各地で発生し、想定を超る

えた災害に晒

22期編集委

第第第第第第本本 第五四分分分分分分分分分分 图 団 団 団 団 団 団 部 部

鈴 小 峯 窪 齋 鈴 木 泉 岸 倉 藤 木

信之

(編集顧問) (編集委員長)

様々な自然 た。

されながら、日常の大切さを痛感する日々です。

や研修を手探り状態で行った一年でし

今年は東日本大震災発災から十年、

えて、感染症予防対策を講じた新し

い様式の訓練

令和二 発表会は動画投稿サイトにて十一月六日から 女性消防団員活動発表会で 市内九消防団が参加した女性消防団員活動 年度

慢秀賞を受賞

れる快挙を達成しました。なお、最優秀は南 票が行われました。 配信され、同時に横浜市各消防団員による投 その結果、港北消防団の発表が優秀に選ば

資機材取扱訓練を実施しました。

において、港北消防署部隊と合同で

遠距離送水

月十二日横浜市環境創造局港北水再生センター

大規模地震の発生が危惧される中、

が訓練に参加しました。

第五及び第六分団の有志の消防団

当日は飯田団長をはじめとし、

第二、第四、

員二大程

り職員と協力して百ミリホース

ホース延長車や手作業によ

三十九本、総延長七百八十メー

ルをホースの折れや縁石の接

ションを重ね、救命処置と感染症予防を同

そのため指導担当者は事前にシミュレー

策を講じた指導という難しい対応に迫られ など通常の救命処置に加え、感染症予防対 女性団員が担当し、心肺蘇生法や応急手当

指導は加藤分団長(第八分団)をはじめ

時に対応するという課題を克服し、受講者

の技術の向上に留まらず、感染症予防を図

う予定でしたが、本年度二度目の緊急事態宣 口港北消防署会議室において港北消防団の授 が発令されたことに伴い、

令和三年二月九 一
防団が受賞しました。 当初、授賞式を局長出席のうえ消防局で行

買式を実施しました。 当日は、加藤分団長、木村副分団長が被授

の採水口から水を大型水槽に

貯留したものを消防隊から送

一度小型水槽に貯水した

触による破損防止に留意しな

がら敷地内を延長し、施設内

賃者として参加しました。 平中副局長から賞状及び記念盾が加藤分団 木村副分団長に











			-		13-140-1-073							
火災発生状況												
	年	別		令和3年	令和2年	増△減						
	件	数		16	17	△ 1						
	建		物	10	8	2						
火	林		野	0	0	0						
災	車		両	0	0	0						
種	船		舶	0	0	0						
別	航	空	機	0	0	0						
	そ	の	他	6	9	△3						
	床	面	積	993	61	932						
損	死		者	3	0	3						
	焼	死	者	3	0	3						
害	放	火自	殺	0	0	0						
	負	傷	者	5	1	4						

	負	傷	者	5	1	4						
主な出火原因												
	年	別		令和3年	令和2年	増△減						
1	た	ば	こ	5	1	4						
2	電	気 機	器	2	0	2						
3	放火	((疑い	含む)	2	8	△6						
4	灯		火	1	0	1						
5	烫掉	E 継・打	7 脒 採	1	0	1						











東日本大震災発災から十年、本年二月に発生 扱訓練 令和三年三 **怎も新しく、** 可搬式ポンプから加圧して放水しました。

遠距離送水資機材取



がスムーズに行えるよう平時からの顔の見え らないため、消防団と消防隊の連携が不可欠 延長するためには複数人で対応しなければな 百ミリホース(重量二十キロ以上)を適切に 送水手段であることを再確認するとともに、 る関係を引き続き構築していきます。 道断水により消防用水の不足に対する有効な あるという声を聞くことが出来ました。 災害活動に際して、消防団と消防隊の連携 この訓練を通じて、大規模地震発生時、

港北消防団ホームページ https://www.city.yokohama.lg.jp/shobo/shouboudan/05-14.html